

Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.14 No.11 November 2013

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- 巻頭言
コンピュータの誤作動
／深谷忠一 1
- 天理教教理史断章 (75)
家城文書④
／安井幹夫 2
- 天理教伝道史の諸相 (23)
福島と宮城の天理教
／早田一郎 4
- 「おふでさき」の有機展開 (19)
第三号：第八十一首～第九十一首
／深谷耕治 5
- フランスで育つ日本人の子供たちへの
日本語教育 (11)
天理日仏文化協会子ども日本語講座の
取り組み①
／田中久代 6
- 新宗教のブラジル伝道 (7)
キリスト教の変容④
／山田政信 7
- 「いのち」をつなぐ—生死の現象 (23)
死者と生者の間に④
／堀内みどり 8
- ノーマライゼーションへの道程 (21)
福祉のまちづくり⑧
／八木三郎 9
- 天理参考館所蔵の漢族資料 (7)
玩具④
／中尾徳仁 10
- 平成 25 年度公開教学講座「信仰に生
きる」：『逸話篇』に学ぶ (2)
第 5 講：15「この物种は」
／森洋明 11
- 図書紹介 (79)
『日本仏教の社会倫理—「正法」理念から
考える』
／金子昭 12
- English Summary 13
- おやさと研究所ニュース 14
教団付置研究所懇話会第 12 回年次大会に参加／
第 6 回「宗教と環境」研究会を開催／宗教・研
究者エコイニシアティブ (RSE) の運営委員会に
出席／宗教倫理学会第 14 回学術大会の担当校に
／日本印度学仏教学会第 64 回学術大会に参加

巻頭言

コンピュータの誤作動

おやさと研究所長 深谷忠一 *Chuichi Fukaya*

懇意にしていた中古車センターの主人が「掘り出し物がありました」と届けてくれた北米製の日本車に、10年間ずっと乗っていました。ところが、このセダンの走行メーターが12万キロを超えた頃から、ABS(急ブレーキをかけながら、衝突回避のためのハンドル操作ができるシステム)が誤作動するようになり、ブレーキを踏むたびにガリガリガリと大きな音がして、車体が振動するようになってしまいました。

教会の信者の修理工場の社長が、なるだけ費用をかけずに直そうと、国内ではめったに出ない中古車・部品を探してくれ、その電子基盤を装着したのですが、それでも状況は改善しません。県内で一番の車のコンピュータ技師に応援を頼んでも原因が分からず、20数万円するドイツ製の新しい電子基盤を取り寄せても直す保証はないという。結局、誰もがお手上げの状況になってしまったのです。

昨今の自動車は「走るコンピュータ」といわれ、多いものには100個もの超小型コンピュータセンサーが搭載されています。その電子制御システムを満載した車を作るためには、車メーカー、半導体メーカー、電装品メーカーが連携して、数百人の技術者が2～3年かけて取り組むといわれます。ですから、よほどの天才でもないかぎり、一人で車載されたシステムの細部まで全部が分かるというのは不可能に近い。電子基盤が誤作動をしても、どの基盤の回路がおかしいのか判断するのは難しいということなのです。

しかるに、車の自動化・走るコンピュータ化はますます加速しています。たとえば、あるメーカーは、去る9月26日に「自動運転車の試作車で、日本の公道を走行できるナンバープレートを取得した」と発表しました。これは、車載カメラで他の車や歩行者の動きを認識し、信号や障害物の有無を判別して走る車の試作車が、一般道を走れるレベルになったということです。メーカーはこの「自動運転車」をオリンピック・イヤーの2020年までに市販したいといっています。

近年日本で作られている車や電化製品には、日本人が開発した基本ソフト(OS)のトロンが

使われていて、筆者の車に搭載されていた外国製のOSのようにバグらないとされています。しかし、たとえば、今年の夏は我が家の日本製のクーラーが故障して困りました。1台の室外機から1、2階の複数の部屋へ冷気を送るコンピュータ制御の電子基盤がバグって、階下の部屋の冷房ができなくなったのです。

さらには、我が家のインターネットの接続も不安定になりました。時間帯によってネットに接続できなくなり、専門の人が調べても原因が分かりません。その業者がたまたま持っていた中古の無線LANの親機を接続したら復旧したのですが、新規に購入したそれと同じ機器を装着したらまた繋がらなくなってしまう。それでまた借りた中古品を使うと復旧するという有様なのです。

幸いクーラーもインターネットも何とか普通に使えるようになりました。しかし、これらの出来事を通して、「『機械はミスをしない』という前提で車や家電の自動化を急ぎすぎるのは危険だ」という警告を受けた感がした今夏でした。

さらに申せば、これから「自動運転」のための車載情報機器がインターネットに接続されるのが当たり前になると、新たな危険も出てきます。ハッカーが車載コンピュータに不正アクセスをして、運転手の意志に反する運転をすることも有り得ることなのです。つまり、安全・快適のための車載のシステムが悪用されて、思わぬ事故が起きる可能性もあるのです。

電子基盤が直らなかつた車は廃車して、ある人から、「自分は今もう乗れないので引き取ってください」と申し出があった車に乗ることになりました。以前のものより5年古いもので、走行距離も5万キロ多い17万3千キロという車です。種々のセンサーは前の車よりずっと少ないのですが、普通に走ることには何の問題もありません。昨今の電子制御の車に比べると燃費は悪いですが、まだ使える車を廃車せずに使う方が、トータルではエコに貢献しているはずですが、多少大げさですが、「機械ではなく、自分が車を運転している」と実感できることが、とても有意義なことだと思っている次第です。